

ガーデンシティふかや推進室[ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

花で包む 緑でつなぐ 笑顔の輪

ポスター背景の花々
深谷市の花：チューリップ
旧岡部町の花：コスモス
旧川本町の花：福寿草
旧花園町の花：福寿草

今年は40軒のお庭がオープン予定



深谷市誕生20周年記念・新札発行1周年記念事業

第22回 深谷市誕生20周年記念・新札発行1周年記念事業

ふかや花フェスタ & オープンガーデンフェスタ

22ND FUKAYA FLOWER FESTA & OPEN GARDEN FESTA

4/26日 27日 午前10時～午後3時
会場 深谷城址公園(本住町17-1) ほか

今回の花フェスタは、深谷城址公園を会場として実施します。会場ではガーデニング教室、ガーデニングコンテストの作品展示、ステージイベント、飲食や物品、花植木の販売などが行われます。また、期間中には深谷オープンガーデン花仲間によるオープンガーデンも開催されます。皆様のご来場をお待ちしております。



ガーデニングコンテスト作品展示



花フェスタ会場フォトスポット



オープンガーデン(磯川庭)

ふかやオープンガーデン『早春の庭』開催

オープンガーデン『早春の庭』として、12軒が公開します。クリスマスローズや、かれんな球根花が咲くこの時期に、ぜひご覧ください!

とき 3月22日(土)・23日(日)午前9時～午後4時

問い合わせ 深谷オープンガーデン花仲間 栗原さん ☎090-7183-3481

※自家用車でお越しの際は、交通ルールを守り、近所に迷惑が掛からないようお願いします。

※公開するお庭は、花仲間のホームページ(右記QRコードからアクセス)をご覧ください。



大島庭



ふかや学校花はなプラン～地域で子どもを育てる～

学校花はなプランとは、学校だけで子どもの教育をするのではなく、地域で将来の日本を担う子どもを育てられるよう、子ども・学校・PTA・地域が、一緒になって花壇づくりを行う活動です。市内小・中学校、幼稚園の皆様のご協力で、花壇づくりが行われています。



▲深谷西幼稚園



▲本郷小学校



▲南中学校



▲上柴中学校



障害者施設を紹介します

就労継続支援B型 いまここワーク

いまここワークは、医療法人社団勝医会 ふかやクリニックが立ち上げた、アリオ深谷のすぐそばにある事業所です。障害があるかたなどに就労の機会などを提供する、就労継続支援B型のサービスを行っています。

仕事内容は、主に弁当の製造・販売、内職作業(紙箱折り、ボールペンの組み立て)、施設の清掃を行っています。

弁当は、ふかやクリニックが提唱する考え方『医食同源(バランスの取れた食事を取ることで病気の予防につながる)』に基づき、管理栄養士がメニューを考え、調理師の指導の下、利用者が分担して作っています。毎週火曜日と木曜日、昼休みの時間帯に市役所本庁舎1階多目的ホールで販売していますので、ぜひお試しください。

いまここワークという名前は、過去にとらわれず、未来に悲観せず、『いま』『ここ』にいる自分を大事にして毎日を送ってほしい、そんな願いを込めて付けました。

いまここワークは、『新しい自分に出会う場所』です。利用者には、今までできなかったこと、苦手だったことにチャレンジすることで、自分の可能性が着実に広がっていくことを感じてほしいと考えています。



▲ボールペンの組み立て作業の様子



▲弁当作りの様子

☎(医) 勝医会 いまここワーク ☎580-4183、障害福祉課 ☎571-1011、FAX 574-6667



父の市郎右衛門は教育熱心

このコーナーのタイトルである『青淵遺薫』は、雅号『青淵』こと渋沢栄一が、父の市郎右衛門の遺墨集に『晩香遺薫』と名付けたことに由来します。

『晩香』とは、市郎右衛門の雅号で、書道や俳句をしたためた際に使用した名前です。『遺薫』とは残り香の意味で、父の面影を多くの人に伝えたいという気持ちが伝わります。

『晩香遺薫』には、子どもに勉強を教えるために自ら書いて手本とした手習いや、自作の俳句が数多く掲載されています。市郎右衛門

▲遺墨集『晩香遺薫』

門は教育に熱心で、跡継ぎと考えていた栄一には『司馬温公家訓』及『朱子家訓』や『商売往来』などの文章を書き写し、文字を教えまじした。同様に、栄一の姉の『なか』、妹の『てい』のために『教諭書』や『女消息往来』、『大和往来』の文章を書いた手本を作り、女子にも教育の機会を与えていました。また、若い頃から書道や文学を学び、特に俳句は、弘化3年『新選』『俳諧三十六句傳』の巻頭に『晩香』舎鳥雄の俳句で紹介されるほどの腕前でした。

市郎右衛門は渋沢一族の中でも『東の家』に生まれ、『中の家』に婿入りしてからは、農家として麦や藍葉、藍染の染料のもととなる藍玉の製造を研究し、良質な商品を広く販売し、家を豊かにしました。人のために尽くし、誠実で、質素倹約を旨として家業を盛り立てた市郎右衛門は明治4年に63歳で亡くなりました。戒名は『晩香院 藍田青於居士』で、藍田は家を興すを体現した市郎右衛門の面影が、戒名からも伝わってきます。

このコラム『青淵遺薫』も、栄一の面影が皆さんに伝わるように書き進めていきたいと思います。